

口語詩句 4月総評 龍 秀美

<評>口語詩句賞の白熱した議論を経たあとでは、月次の選評も新鮮な感じがします。また投稿の優秀作品の質も数もぐっと上がった印象があり選択に悩みました。

あたたかい言葉をたべる
わたしは、人を産んだことがある

青野 椰栄 東京都

——食べる、産むという最も原初的な二つの感覚が見事に結びついている。「人を産む」ことと「あたたかい言葉をたべる」とはイコールなのかも知れない。

肺胞のひかりを
喉へせりあげて
みもざのようなきみのこくはく

さいう 石川県

——身体に関する言葉が運動を起こして繋がると未知の景色となる。ミモザの色が鮮やか。

ぶらんこを漕いでは付け足すデス
ノート

田崎森太 東京都

——名前を書かれた人は死ぬというデスノート。ぶらんこを漕いでいると次々に候補者の名が浮かぶ。デスとノートが分かれているのが面白い。

死ぬときは何時も一人だ
アンパンマン
だからごはんはふたりでたべる

マズルカ 山口県

——「アンパンマン」が真ん中の行にあることの働きは大きい。そのため「一人」と「ふたり」が無理なく、しかもほのぼのと繋がる。

指かるく吸うとわたしは
躊躇より海に似ている
裸足で来なさい

汐見りら 東京都

——裸足で来なさいと呼ぶものは海か。それとも内なるあこがれか。

育児家事時短勤務後育児家事

貴田 雄介 熊本県

——時短勤務といつても、その前後にぎっしりと詰まっている育児家事は何も変わることはない。漢字の羅列が息苦しさを表している。

死んでからbingo大会までの暇

羊夏生 東京都

——生まれ変わるためにbingoに当選しなければならない。その間はまつたりと宙にさまよっていよう。

巫女たちが一心に読むバーコード

桜庭 紀子 和歌山県

——「一心に読む」ものが祝詞ではなくバーコードというのは、皮肉とは少しづれているようだ。ユーモアの香りが漂っているからだろう。

小川には光の脈がながれゆく
君とは月の話ができない

金光 舞 埼玉県

——せせらぎに碎ける月の光。そのように乱れる脈。初々しい作品。

花陰にカレーは飯をまわりこむ

ムクロジ 群馬県

——花陰という日本の美意識が詰まった言葉と、カレーという極日常のものの取り合わせを新鮮なものにするのは、飯をまわりこむカレーの動きという微細な物の発見。季語があるからこそその発見だろうか。

半ドアですよ、その走馬灯。

牛田 悠貴 東京都

——デジタル世界ではすべてが一つの方向へ動くとは限らない。目まぐるしく位置が変化する。思い出も変わらざるを得ない。

水を飲むように桜を見ていたい

絵巻 東京都

——命に不可欠な水のように、桜は心に不可欠なのかも知れない。

ふり一ぢあ盲導犬が歩み寄る

互井宇宙論 埼玉県

——主人の手足となって働く盲導犬。匂いに魅かれてか見えないはずの花に歩み寄る。そのとき人と犬は一体の存在になっているのだろう。

苦手なら大砲撃たなくていいよ

小薬 味 東京都

——もし「戦争」なら決してこうは言われない。不可能の側から見た戦争の本質。

越境を終えた翼のようにして

青い器におくカトラリー

快名 千葉県

——境を越えるには遙かな高さや距離を通過しなければならない。切り分け、刺し、運ぶカトラリーは役目を終えて静かに器に寄り添う。美しいイメージ。

思い出の

皮を剥かれて

死ぬイチジク

中立 明子 熊本県

——密かに大切にしていた生きるよすがを奪われる痛みが、イチジクの剥かれる生皮のよう。

黒山羊は手紙を食べたことにして
ひとりの夜に何度も開く

小武頼子 京都府

——こういう経験の人はたくさんいるのでは。

こみゅしょうの砦のマスク水芭蕉

鶯浦 るか 富山県

——まるで純白の酸素マスクのようなかたちをした水芭蕉。それはコミュニケーション障害という息苦しさを救命するマスクのようだ。

ツチノコの餌にとつとけ紅生姜

背腹 鳩太 北海道

——紅生姜のあの赤はどうみても非現実的だ。あんな色にする必要がどこにある。ああいうものは、ホントにいるかどうか分からないツチノコの餌にふさわしい。

エピペンとヒヨドリでピヨる

柿田中村 千葉県

——それが無くては命に関わるエピペンという存在に、柔らかに寄り添って慰められるのは言葉の音韻が持つ力。

海星たちの丘で

薬莢を産み落している

それ

即ち

われらが聖母

鷹枕可 東京都

——犠牲となるものを産み落とした聖母は沖縄だろうか。海星は国旗の星かも知れない。